令和５年度　徳島県立城東高等学校　学校評価　総括評価表

本年度の具体的目標

①　人権教育の充実

ア　人権尊重を柱にすえた教育活動を推進する　イ　自他を大切にする心や態度を育成する　ウ　家庭への啓発活動を推進する　エ　学校の教育活動全体を通じて道徳教育を展開する

②　学習指導の充実

ア　学習意欲を引き出す指導体制・指導方法の工夫・改善を図る　　イ　探究活動をとおして主体的に学習に取り組む態度の育成を図る
ウ　新学習指導要領の趣旨に即した授業改善を図る　　エ　ＩＣＴを積極的に活用した個別最適な学習、協働的な学習を推進する

③　進路指導の充実

ア　企業研修等を通じて生徒一人一人の勤労観・職業観の育成を図るとともに、夢や目標を明確にさせる
イ　生徒一人一人の学力や適性、興味・関心に応じたきめ細やかな指導を充実させる
ウ　進路実現のために必要な情報を迅速かつ的確に収集し、組織的・計画的な指導を行う

④　生徒指導の充実

ア　社会の一員としての正しいルール・マナーを習得させ、基本的生活習慣の確立を図る　イ　良好な対人関係を構築できる社会性を育み、いじめを未然に防止する態勢を整える
ウ　生徒との信頼関係を確立し、家庭との連携を図り、個に応じた生徒指導を展開する

⑤　特別活動の推進

ア　ホームルーム活動・生徒会活動を活性化させ、自主性や実践的な態度を育成する　　イ 部活動を充実させる
ウ　ボランティア活動の機会を取り入れ、豊かな人間性を育てる

⑥　健康教育の推進

ア　正しい食生活等の健康増進についての指導を行い、心身の調和的発達の促進を図る　　イ　一人一人に応じた特別支援教育の推進を図る
ウ　教育相談活動の一層の充実を図る

⑦　環境教育・安全教育の推進

ア　環境問題への意識高揚と環境学習の推進を図る　　イ　校内外の環境美化活動を推進する　　ウ　防災教育を推進し、災害時の実践力を育成する

⑧　主権者教育・消費者教育の推進

ア　政治や選挙への関心を高め、有権者として必要な政治的素養の育成を図る　　イ　成年年齢１８歳に対応し、消費者被害等の危機を自ら回避できる能力を育成する
ウ　持続可能な社会の実現に寄与する消費生活を実践できる能力を育成する

⑨　読書活動の推進

ア　生徒の望ましい読書習慣の形成を図る　　イ　生徒の自主的な読書活動を推進する

⑩　グローバルな活動につながる教育の推進

ア　異文化理解学習を通じて、国際協調の精神の涵養を図る　　イ　国際社会の中で主体的に生きる能力や課題を解決する力の育成を図る

⑪　開かれた学校づくりの推進

ア　教育活動の積極的な公開を推進する　　イ　ホームページ等を利用しての積極的な情報発信を推進する
ウ　学校運営協議会等を利用し、地域社会、ＰＴＡ、同窓会との連携を図る

⑫　持続可能で信頼される学校づくりの推進

ア　校務運営体制の効率化と充実を図る　　イ　教職員のコンプライアンス意識の高揚を図る　　ウ　校内外の研修を通じて指導力の向上を図る

1　人権教育の充実

重点目標	評価指標（活動計画）	評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①人権尊重を柱にすえた教育活動を推進する。 ②自他を大切にする心や態度を育成する。 ③家庭への啓発活動を推進する。	①　人権尊重の精神が息づく学校の雰囲気ができていると生徒が回答した割合９５％以上 ②　主体的に人権の学習ができたとする生徒の割合　９５％以上 ③　人権意識向上のための指導が適切だと回答した保護者の割合　９０％以上	①９２．２％ ②８９．１％ ③８７．８％	B B B	（評定） B	人権問題意見作文や、講演会のアンケート、人権ホームルーム活動での取組などを見ていると、それぞれの人権課題を自分事としてとらえる姿勢や、生徒自身の人権意識の高揚などを見て取ることができる。また社会や組織の中にある人権的課題にも目を向け、主体的に解決しようとする機運も高まっている。一方でそれに対するサポートやリソースが相対的に不足している面もあり、次年度はより人権学習を拡充するとともに、保護者への働きかけも充実させる必要があると考えられる。
	活動計画	活動計画の実施状況	（所見）		学校関係者の意見
	①　・「人権週間」年３回以上実施する。 ・「人権講演会」など年１回以上実施する。 ・「校内意見発表会」年１回以上実施する。 ・その他、適切な啓発行事を実施する。 ②　・「人権問題ホームルーム活動」年４回（３年は３回）実施する。 ・「人権職員研修会」年３回実施する。 ③　・「人権新聞」等、人権教育課からの啓発文書を年３回以上保護者に送付する。	①・「人権週間」年３回実施 ・「人権講演会」年２回実施 ・「校内意見発表会」年１回実施 ②・「人権問題ホームルーム活動」年４回（３年は２回）実施 ・「人権職員研修会」年５回実施 ③・人権教育からのお知らせを合計年３回発行。生徒を通じて保護者閲覧。　（以上予定を含む）	人権講演会や校内意見発表会、いのちの安全教育などの充実を通して、生徒の人権尊重の精神の涵養につなげることができた。 また、集会などで、できるだけ人権教育課から生徒に直接語りかけることで、恒常的に人権問題を自分事と捉えるよう働きかけることができた。		ジェンダーや性の多様性についての学習をお願いしたい。また、グローバルな視点から自分の意見が言えるように経験を積ませて欲しい。

2　学習指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）	評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。 ②新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善を図る。	①　生徒の学習時間（１日あたり）３時間を超える生徒の割合　７０％以上 ②　令和６年度の教育課程を編成する。	①　47.7% ②　新学習指導要領の趣旨を踏まえた令和６年度入学生用新教育課程を編成した。	C A	（評定） B	学習時間の調査をクラウドサービスに変更して２年経過しているが、未だに全員が入力できる状態にはいたっていない。引き続き、学習時間と学習内容の意義を個々の生徒にしっかりと理解させることで入力の定着を図っていきたい。 観点別評価については、次年度にむけて課題を整理し、より適切な評価に努めていく。
	活動計画	活動計画の実施状況	（所見）		学校関係者の意見
	①・家庭学習時間調査を学習支援クラウドサービスを活用し、毎日実施する。 ・月ごとに学習計画を立てるように習慣づける。 ・生徒１人１台タブレット端末を活用した授業支援・学習支援クラウドサービスの有効的利用を推進し、主体的に学ぶ力を身につけさせる。 ②-1 新学習指導要領の趣旨に即した評価方法を確立させる。 ②-2 授業参観や職員研修を通して、評価を授業改善に繋げる取組を行う。	①　学習時間調査を毎日実施した。 ・タブレットの機能を用いて授業での疑問点に個々に対応したり、また、総合的な探究の時間では、課題や発表原稿を校内グループ機能を利用して、生徒グループ間と担当教員の間での共有を行い、添削指導に利用している。 ②-1　昨年度を踏まえて、評価方法・観点別配点を作成した。 ②-2　６・１１月に相互参観授業を実施したり、教科会等で研修をした。	平均学習時間3.1時間である。人により差が激しい。クラウドサービスを利用して担任と生徒が毎日コメントを交換するなど、コミュニケーションをとる有効な手段となっている。 観点別評価については、評価の妥当性に関する振り返りと検討をしていく必要がある。		学習時間も大切であるが、どれだけの課題をこなしたか、また、自ら抱いた疑問の解決のために、どれだけ主体的な学習活動ができたかを重要視するのはいかがか。学習時間の指標や調査方法を再考してはどうか。

3　進路指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）	評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①生徒一人一人の勤労観・職業観の育成を図るとともに、夢や目標を明確にさせる。 ②生徒一人一人の学力や適性、興味・関心に応じたきめ細かな指導を充実させる。	①　総合的な探究の時間『クエスト』の有用度　８５％以上 ②・東京大、京都大　合格者数　１０名以上 ・医学部医学科　合格者数　１０名以上 ・難関１０大学　合格者数　４０名以上 ・第１希望先に進路決定できる生徒の割合（大学・学問系統）　７０％以上 ・校外模試偏差値７０以上　４０名以上 偏差値６０以上　１４０名以上	①生徒　８０．６％ 保護者　９０．３％ ②東京大、京都大　合格者数１０名 医学部医学科　合格者数１５名 難関１０大学　合格者数４６名（既卒生を含む） 第１希望先　５６．６％ 令和６年３月１９日現在 校外模試偏差値７０以上 ３４名（２年）３８名（１年） 偏差値６０以上 ９９名（２年）１４４名（１年）	B A B	（評定） B	『クエスト』の取組を通して、生徒のキャリア形成の充実を引き続き図っていく必要がある。また、外部コンテストへの参加をさらに促すことで、課題研究に取り組むことの有用性を身につけ、地域活性化に貢献する人材育成につなげていきたい。 より多くの生徒が、自ら学習を進めるための動機となるような、講演会や講座を引き続き考えていく必要がある。そのためにも東京大学金曜講座やWWLコンソーシアムのオンライ講座に加えて、京都大学との高大接続を活用することで、より多くの生徒が参加するような仕掛けを考えていきたい。
	活動計画	活動計画の実施状況	（所見）		学校関係者の意見
	①・外部講師を招いた総合的な探究の時間「クエスト」を１、２学年で２回以上実施する。 ・探究の成果を外部に向けて発信するために各種コンテストへの参加を奨励する。 ・探究活動を充実したものにするための検討会を年２回以上実施する。 ・徳島大学等の体験授業や物理チャレンジなど各種コンテストへの参加を推奨する。 ・東京大学金曜講座の生徒への周知を行い、参加を推奨する。 ②・進路検討会を３学年で年４回実施する。 ・難関大希望者対象模試を各学年２回以上実施する。 ・模試分析会を１、２学年で３回実施する。 ・学力テストの講評を全学年で延べ１１回配布する。	①・１、２学年で外部講師を招いた総合的な探究の時間を６回実施 ・ベネッセ探究コンテスト、徳島未来創造・アップデートコンテスト、京都大学ポスターセッション2023、物理チャレンジ、地学チャレンジ等に参加。 ・東京大学金曜講座２６回実施 WWLコンソーシアム オンライン講座１８回実施 ②・進路検討会３学年で４回実施 模試分析会１、２学年で３回実施 ・難関大希望者対象模試を各学年で３回実施 ・学力テストの講評を全学年で延べ１１回配布	８０％以上の生徒が、総合的な探究の時間に達成感を持っていることが分かる。今年度より、京都大学との高大連携も開始し、２年生の課題研究で優秀だったグループが参加することとした。 生徒向けの講演会や分析会・検討会は予定通り実施できた。各種コンテストに応募するなど興味関心を持つ分野を見つけられた生徒は一定数いるものの、そうでない生徒もいる。			公立高校として、高く評価できる状況にあると考える。今後とも、各種コンテストへの参加を推奨し、総合的な探究の時間『クエスト』の活動も充実させて欲しい。その際、学校の地の利を生かし、近畿圏の大学とも連携し、生徒の興味・関心を探究活動につなげるのはいかがか。

4　生徒指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）	評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①社会の一員としての正しいルール・マナーを習得させ、基本的生活習慣の確立を図る。 ②良好な対人関係を構築できる社会性を育み、いじめを未然に防止する態勢を整える。	①-1 服装・頭髪が守れている割合　９５％以上 ①-2 挨拶が身についている割合　８５％以上 ①-3 ルール・マナーを守っている割合　９５％以上 ②　いじめを未然に防止するための積極的な取組　（面接・アンケート　２回）	①-1　生徒　８９．９％ ①-2　生徒　８０．４％ ①-3　生徒　９０．６％ ②　アンケート２回（１０月・２月）	B B B B	（評定） B	服装・頭髪については、生徒会からの呼びかけや、相互チェック等を継続し、定期的に服装頭髪指導を計画する。 生活委員による駐輪マナーアップ・挨拶運動等を継続する。朝夕の挨拶だけでなく、休み時間等の挨拶も自然に行えるよう、教員からも働きかける。 携帯電話・スマートフォン利用・薬物乱用防止教室・交通安全教室等の講演会も継続して行いたい。

	活動計画	活動計画の実施状況	（所見）	学校関係者の意見
	①-1 各学年での服装・頭髪指導を充実させる。（年３回） ①-2 生活委員による挨拶運動、駐輪場のマナーアップ運動を各学期それぞれ１回実施する。 ①-3 交通マナーアップ運動、携帯電話・スマートフォン講演会、薬物乱用防止教室等を通じて、全校生徒に社会のルールを守ることやマナー指導を行う。 ② クラス分析会を定期的に開催し、生徒の状況等について情報交換を行う。アンケートを活用し、生徒の状況把握をする。重要な対策等が必要なときは、いじめ防止等対策委員会を開き協議を行う。	①-1 各学期のはじめに学年毎に行った。（年３回） ①-2 各学期に生活委員が駐輪場のマナーアップ運動を行った。 ①-3 薬物乱用防止教室（７月）、携帯電話・スマートフォンの利用について（５月）の講演会を行った。 ② 学年毎にクラス分析会を行い、生徒の情報共有が行われた。いじめ防止対策委員会は、５回実施した。	服装・頭髪や挨拶、ルール・マナーについての達成度は全て評価指標に達成することができなかった。 携帯電話・スマートフォンの利用については、生活の改善が見られた。 学校生活についてのアンケートを、１０月・２月に行った。面接週間等を利用し担任とのコミュニケーションがとれるようにした。	ＳＮＳでの被害や犯罪が増加しているので、ＳＮＳの利用に関する研修を一層充実させてて欲しい。また、ルールを守ることの大切さを理解させると同時に、グローバル社会を生きる人材に必要な多様性を容認する柔軟性や、既存のルールに疑問を持ち新しいルールを作る力の育成もお願いしたい。

5　特別活動の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）	評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①ホームルーム活動・生徒会活動を活性化させ、自主性や実践的な態度を育成する。 ②部活動を充実させる。	① 生徒会活動が活発である割合　９５％以上 ② 部活動の充実度　８５％以上	①生徒　９２．３％ ②生徒　８１．０％	B B	（評定） B	本年度は生徒総会を2回実施し、総会議案(校則の見直し)についての協議に時間を費やした。次年度以降も第2回生徒総会を実施する場合、適切な時期等について考えていきたい。
	活動計画	活動計画の実施状況	（所見）		学校関係者の意見
	① ・生徒会活動や学校行事への積極的参加を促す。 ・朝の挨拶運動を始め、生徒会による学校の活性化を図る。 ② ・部活動と学習面との両立を図る。 ・短時間で効率のよい活動を心がけ、各々の目標の達成を目指す。	①・生徒会が主体的に学校祭、球技大会等の企画・運営に携わった。 ・生徒総会での議案の実現に向け、活発に活動した 。 ②・「文武両道」の実現を目指し、部活動活動方針を踏まえた短時間で効率のよい活動を行った。	生徒会は多くの学校行事に主体的に関わり活動の可視化に取り組むことができた。また、部活動では目標達成のために日々努力し、多くの部が大会やコンクールで好成績を収めることができた。		生徒会は校則の見直し等、主体的な活動が十分に行われていると評価する。また、部活動も素晴らしい成果を残す取組ができている。

6　健康教育の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）	評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①正しい食生活等の健康増進についての指導を行い、心身の調和的発達の促進を図る。 ②一人一人に応じた特別支援教育の推進を図る。 ③教育相談活動の一層の充実を図る。	① ・「保健だより」の発行回数　１２回以上 ・保健室の生徒への応急処置や心の悩み等への対応の良好の割合　８０％以上 ② 特別支援教育に関する職員研修会に対するアンケートの満足度　９０％以上 ③ 親身になって生徒の悩みや相談に応じてくれる割合　８５％以上	①・１３回 ・生徒　９６．１％ ② 教職員　９８．２％ ③ 生徒　９２．２％	A A A	（評定） A	「保健だより」や保健委員の活動をとおして、生徒の健康に対する意識を向上させる取組を継続していきたい。 コロナ禍を経て、生徒のコミュニケーション能力の変化を感じる事案が見られた。様々な事柄に対して、しなやかに対応できる心の健康を高めることができるように取り組んでいきたい 。
	活動計画	活動計画の実施状況	（所見）		
	① ・保健委員会での生徒の自主的活動を推進する。 ・文化祭での展示等により、健康増進への啓発を図る。	①・保健委員は、手洗い石けん液やアルコール消毒液の点検・補充、車いすやＡＥＤの点検、体育祭や球技大会の救護など行った。	保健委員は当番制で定期的に活動し、決められた仕事を責任を持ってこなすことができた。文化祭の展示など積極的に参加できた。		

	・各教科・各課と連携し、食育啓発を図る。 ・「保健だより」を１２回以上発行し、健康増進について興味・関心を深める。 ② ・特別支援教育に関する職員研修会を１回実施する。 ・各学年会を利用して、気になる生徒についての情報交換を定期的に実施し、心身や生活面、学業などについて悩みや問題を抱えている生徒を早期に発見し、支援を行う。 ③ ・カウンセラーや専門機関と連携した教育相談活動を充実する。	・文化祭では、保健委員が中心となり、目の健康について調べ、掲示物を作成し、生徒への啓発を行った。 ・「保健だより」は１３回発行した。 ②・校内研修会を１学期に１回実施した。 ・学年会での情報交換に加えて保健室やスクールカウンセラーとの連携により、生徒への早期の対応支援を行った。 ③・教育相談の開設は２１日である（１２月２１日現在）。	保健室の対応では、新型コロナ対応のため相談室や会議室を第二保健室として機能させ、感染症対策に取り組んだ。 スクールカウンセラーに定期的に教育相談を行っていただき、専門的な支援を必要とする生徒・保護者・教職員に支援ができた。担任との連携で、早期の対応ができたケースもある。 教員の校内研修は発達に特性のある生徒に対する対応や言葉かけについて実施した。生徒の健やかな学校生活の継続に必要な内容であり、高い満足度を得ることができた。	学校関係者の意見 特別支援教育に関する職員研修やスクールカウンセラーと連携しての保健の授業など、多様な取組ができていたことを高く評価する。今後増えるであろうＳＮＳで心を痛めた生徒への組織的対応もお願いしたい。また、健康増進についての指導の中で、誰もが病気を患い障がい者になり得ることを認識するとともに、客観的・科学的に健康や病気にについて考えられるようになることを期待する。

7　環境教育・安全教育の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）	評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①環境問題への意識高揚と環境学習の推進を図る。 ②防災教育を推進し、災害時の実践力を育成する。	①　換気や環境美化活動に積極的に取り組んでいる割合　８５％以上 ②-1　防災訓練の実施回数　２回 ②-2　心肺蘇生法の技術を習得する。	①　８４．０％ ②-1　５月と１０月に防災訓練を実施した。 ②-2　１年生および教職員を対象に心肺蘇生法の講習会を実施した。	B A A	（評定） A	アンケート結果では「環境美化」「清掃活動」ともに８割以上が取組に達成感を持っている。引き続き清掃への意識向上に取り組みたい。 今年も各地で異常気象による災害が起きた。地震だけでなく河川の氾濫や豪雨災害への対策などあらゆる防災への備えを、できることから地道に行っていく必要がある。
	活動計画	活動計画の実施状況	（所見）		学校関係者の意見
	①　換気や節電・節水を呼びかけ、定期的に環境委員による校内美化活動を実施する。 ②-1 ・防災訓練の実施においては、避難経路や関係教員の役割の確認を行う。 ・災害時の備蓄品等の確認をする。 ②-2　教員・生徒への心肺蘇生法の講習会をそれぞれ１回以上実施する。	①　１年生による清掃奉仕活動を１２月までに１回実施、環境委員による活動を３学期に２回実施 ②-1　５月に火災を想定した訓練、１０月に地震津波停電を想定した訓練を実施 ②-2　１年生および教職員を対象にした講習会を７月に実施	生徒対象のアンケートでは、「環境美化」「清掃活動」ともに約８割が取組に達成感を持っている。引き続き清掃への意識向上に取り組みたい。 清掃奉仕活動は、機会を設け定期的に行った。 避難訓練は基本的避難行動の再確認として行った。火災避難訓練では昨年度より早く避難完了することができた。地震津波停電訓練は３年ぶりに内町保育所の児童及び全校生徒が体育館への避難を行った。今回生じた課題点を今後の活動に生かしていきたい。		学校の清掃が行き届いていて関心しているが、生徒と教職員間で環境美化活動への取組評価に差があるようなので、その解消を図って欲しい。東南海地震を想定しての避難訓練をより具体化するとともに、各家庭での準備を確実にする指導をお願いしたい。

8　主権者教育・消費者教育の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）	評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①政治や選挙への関心を高め、有権者として必要な政治的素養の育成を図る。 ②成年年齢の引き下げに伴う消費者トラブルの防止につなげることを目的に、消費者被害等の危機を自ら回避できる能力を育成する。 ③持続可能な社会の実現に寄与する消費生活を実践できる能力を育成する。	①-1 公民科の学習内容に興味・関心の高い生徒の割合　９５％以上 ①-2 新聞を読む習慣のない生徒　３０％以下 ②　「契約トラブルと消費者保護制度について理解できた」と回答した生徒の割合　９５％以上 ③　「持続可能な社会のあり方について考え、実際に行動に移すことができた」と回答した生徒の割合　８５％以上	①-1 公民科の学習内容に興味関心のある生徒は８６．６％で、昨年より９．１ポイント下降した。 ①-2 ３年生「政治経済」選択者を対象にした調査では、新聞を読む習慣のない生徒は、３７．６％だった。 ②「契約トラブルと消費者保護制度について理解できた」生徒の割合は９８％だった。 ③「持続可能な社会のあり方について考え、実際に行動に移すことができた」と回答した生徒は７８％にとどまった。	B B A B	（評定） B	公民科への関心が昨年より低下したが、５年前と比較すると２７．１ポイント上昇し、国政選挙でも積極的な投票行動が見受けられた。一方ネットニュースの発達と新聞の購読者の減少から高校生の新聞離れが著しく、年度当初７６．３％の生徒が「新聞を読む習慣がない」と回答している。授業で新聞を扱うなどして、習慣が無かった生徒の約半数に読む習慣がついたので、既存の取組を更に充実発展させていきたい。 成年年齢引き下げに伴い消費者トラブルへの危機感は高まっているが、持続可能な社会へ向けて実際に行動できている割合は目標に達していないため、学びと行動がリンクするよう内容の改善に努めたいと思う。
					学校関係者の意見
	活動計画 ①-1 公民科の授業をとおして、選挙制度とその意義について十分に理解を深め、主権者として持つべき意識について理解させる。 ①-2 新聞発表をとおして、社会に関心を持ち、自らの意見を他者に伝える力をつける。 ②　１学年を対象に外部講師による講演を行う。 ③　「エシカル消費」について学習し、持続可能な社会の実現のための実践力を身につける。	活動計画の実施状況 ①　「公共」「政治経済」の授業で受講者全員に新聞を使った発表をさせたり、２年生を対象に主権者教育に関する講演会を行うことで、社会問題への関心を高めることができた。 ②　消費者教育として自分の将来とお金について外部講師による講演会を12月に実施した。 ③　「エシカル消費」について学習し、持続可能な社会の実現のため、不要衣類からリメイク小物を作成した。	（所見） 新聞を使った発表を通じて新聞を読む習慣のない生徒の５０．７％に読む習慣をつけることができた。昨年の参議院議員補欠選挙において、３年生文系有権者５６名に調査したところ、県内有権者の投票率より２５．８ポイント高かった。 消費者教育を通して経済的自立と将来を見通した家計管理の必要性を体得した。持続可能な社会の実現へ向け実践方法を学んだ。			主権者および消費者として、社会との関わり方を十分に学ぶ機会を用意する必要があると考える。例えば、１年生の時から国政あるいは県政に関わる選挙に際して模擬投票を実施し、選挙結果をもとに議論を重ねるのはいかがか。また、権利を行使するためにも、正しい情報を見極める力の育成も推進していただきたい。

9　読書活動の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）	評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①生徒の望ましい読書習慣の形成を図る。	①-1 読書活動に学校として積極的に取り組んでいる割合　８０％以上 ①-2 生徒一人あたりの年間図書貸出数（令和５年１月～１２月）　５．５冊以上	①-1 生徒　７８．７％ 保護者　８０．８％ 教職員　９２．７％ ①-2 ４．２冊	A B	（評定） A	生徒の視野が広がるよう「ライブラリーニュース」で多様なジャンルの本を紹介し、ホームページで広報することができた。ＩＣＴを効果的に使い、校外との交流なども計りながら、校内

	活動計画 ①-1 ・読書週間やビブリオバトルを１・２学期に実施する。 ・学校ホームページに図書館情報を掲載する。 ・「ライブラリーニュース」を毎月発行する。 ①-2　読書会を１・２学期に実施する。	活動計画の実施状況 ①-1・１学期にビブリオバトル、２学期に新書を使ったイベント、１・２学期に読書週間を実施した。 ・ライブラリーニュースを毎月発行し、図書関係の行事とともに学校ホームページに掲載した。 ①-2 読書会を実施し、読書案内を昼食時の放送で行った。	（所見） 読書活動に関するアンケートは、生徒の数値が上昇し、三者平均で目標を達成できた。１人あたりの貸出冊数は４．２冊で目標を下回ったが、読書会や読書週間などは行事として定着し、教科学習の中でも図書館の利用が進められている。	での一層の読書活動の普及に努めたい。 学校関係者の意見 ライブラリーニュースは非常に充実している。ビブリオバトルを校内放送で流したり、他校生を交えて実施すると盛り上がるのではないか。

10　グローバルな活動につながる教育の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）	評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①国際社会の中で主体的に生きる能力や課題を解決する力の育成を図る。	①・国際交流・国際理解教育に積極的に取り組んでいる割合　９３％以上 ・国際理解・交流イベントへの参加延べ人数　３００人以上	①・生徒　９３．６％ 保護者　８６．４％ 教職員　１００％ ・参加延べ人数約６００人（予定）	B A	（評定） A	昨年度より始めた「地球人カレッジ@ Joto」などの国際交流イベントを来年度以降も継続したい。また来年度は現地訪問の姉妹校交流も再開するため、運営スタッフの確保が課題となる。
	活動計画 ①・オンライン会議システムを活用し、海外の生徒や帰国した留学生等との交流を20回以上行う。 ・校内での対面による国際理解・交流イベントを６回以上実施する。 ・ＨＰやニュースレター等を活用し、広報に努める。	活動計画の実施状況 ・オンラインによる研修２０回、対面による国際理解・交流イベントを６回実施（予定）。 ・インドネシア現地研修の様子をタイムリーにＨＰにアップした。また国際交流に関するポスターを作成し、文化祭での展示また多目的ホール前に掲示した。	（所見） 今年度は４年ぶりに現地でのインドネシア研修を実施することができた。また交流相手校が本校を訪れることにもなり、交流がワンショットで終わるのではなく、次への交流へと繋がっていることは高く評価できる。	学校関係者の意見 様々な国際交流活動ができているので、これからも継続していただきたい。姉妹校交流では現地訪問が再開するようだが、徳島にいながら世界とのつながりを認識することも大切だと考える。パレスチナ問題やウクライナの戦争を生徒がどのように考えているかを知りたい。

11　開かれた学校づくりの推進

重点目標	評価指標（と活動計画）	評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①教育活動の積極的な公開を推進する。 ②ホームページ等を利用しての積極的な情報発信を推進する。 ③地域社会、ＰＴＡ、同窓会との連携を図る。	①　公開授業を実施する。 ②　ホームページが学校の情報を得たり、学校の活動を理解するのに役立っている割合　（利用の保護者対象）　８５％以上 ③-1 学校運営協議会の開催回数３回 ③-2 中学生及びその保護者を対象とした学校説明会の開催回数　２回	①　公開授業を２回実施 ②　保護者　７６．２％ （昨年度　７２．９％） ③-1 学校運営協議会の開催　３回 ③-2 学校説明会の開催　２回	A C A A	（評定） A	公開授業等については、次年度も本年度程度の開催を計画したい。 学校ＨＰについては、満足度が約３ポイント上昇した。現在、学校から保護者への情報提供は、Classiが中心となっている。部活動や学校行事等を積極的に掲載し、ＨＰとClassiから発信する情報の差別化を図り、ＨＰの充実に努めたい。
	活動計画 ①　・休日の授業公開日を年２回実施する。 ・中学校、学校運営協議会委員、保護者等への広報を充実させる。	活動計画の実施状況 ①　２回実施 5/13(土)〔参加者：672名〕 10/21(土)〔参加者：356名〕	（所見） 新型コロナウイルス感染症の５類移行に伴い、ほとんどの行事が従前の形式で実施できた。		学校関係者の意見

	②　ホームページを見やすく、使いやすいものになるよう改善に努める。 ③-1 学校運営協議会を年３回（６月、１２月、３月）開催する。 ③-2 学校説明会を休日に複数回実施し、中学生や保護者が参加しやすいようにする。	②　トップページの新着情報を見やすいように修正（画像の表示） 更新回数　167回 アクセス回数　約130万回 （12月末現在） ③-1 ３回実施（６月、11月、２月） ③-2 学校説明会 9/23(土)〔参加者：178名〕 10/ 6(金)〔参加者：112名〕 中学生体験入学 8/9(水)〔参加者：750名〕	ただ学校祭後、多くの新型コロナウイルスの感染者が増加したように、引き続き、インフルエンザを含め感染症対策は必要であると感じた。	ＨＰの内容は充実しているので、保護者の満足度が目標値を下回った理由を分析し、必要があれば評価指標を変更してもよいのではないか。

12　持続可能で信頼される学校づくりの推進

重点目標	評価指標（と活動計画）	評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①校務運営体制の効率化と充実を図る。 ②教職員のコンプライアンス意識の高揚を図る。 ③校内外の研修を通じて指導力の向上を図る	①-1 城東高校への満足度　９０％以上 ①-2 教員の職務の満足度　９５％以上 ②　常にコンプライアンス意識を持って勤務している割合　１００％ ③　校外での授業力向上に向けた研修参加人数　１０名以上	①-1 生徒　９１．３％ 保護者　９４．５％ ①-2 教職員　９８．２％ ②　教職員　１００％ ③「教育課程研究集会」をはじめ教科の授業力向上に向けたオンライン研修会等に参加。２０名以上	B B A A	（評定） A	生徒や保護者の満足度として、高い評価を得ているが、個別最適な学び・協働的な学びを充実させていくための情報共有や研修の機会を増やしていく必要がある。 個々の教職員の能力や特性を的確に把握し、業務分担することで、生徒・保護者のニーズや地域の期待に応えるとともに、発展的・効率的に学校運営を進めていく。
	活動計画	活動計画の実施状況	（所見） 新型コロナウイルス感染症の５類移行に伴い、学校行事や部活動において、以前のような活発な活動ができるようになった。今後はコロナ禍において創意工夫した活動様式をより発展・充実させる必要がある。 タイミングを捉えて研修を実施したが、今後は実施方法の工夫改善等により、引き続き自分事としてコンプライアンス意識の維持・向上を図っていく。 ＩＣＴを用いた授業が充実してきたなかで、より効果的な授業展開ができるような取組が必要である。		
	①-1 学校教育活動及び部活動の充実 ①-2 業務改善の推進 ②　職員全体でのコンプライアンス研修会を３回以上実施し、コンプライアンス意識の向上を図る。 ③ ・県教委計画訪問等も含め、教員研修・研究授業を計画的に配置し、各教科１回以上ＩＣＴを用いた研究授業を行う。 ・外部機関等の授業力向上研修に参加する。	①-1　学校行事のほとんどが従前の形式で実施できるようになったことに伴い、生徒や保護者のニーズに応える教育活動及び部活動の充実につなげた。 ①-2　職員会議資料の一部ペーパーレス化、考査後の５分短縮５限授業の実施など、働き改革を推進した。 ②　職員会議や職員朝会の機会を捉えて２０回実施するとともに、セルフチェックシートを活用し、コンプライアンス意識の向上を図った。 ③　県教委計画訪問を含め、各教科２回以上ＩＣＴを用いた研究授業・公開授業を行った。また、オンライン研修の機会を捉え、外部研修への参加も増えた。			学校関係者の意見 生徒や保護者の満足度が高く素晴らしいと思う。今後とも、城東高校生と他校生との違いは何かを追求していっていただきたい。そのためにも教職員の心身の健康が大事になるので、コンプライアンス関連のホットライン相談口を1つ設けてもよいのではないか。